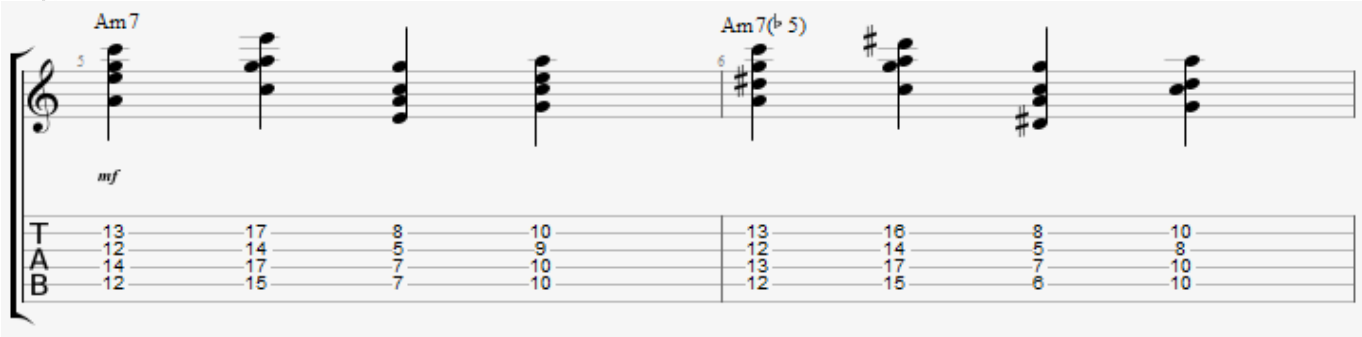
Vol.26　色々なコード・ヴォイシングを弾いてみる　～その 3～

『10 分トレ』vol.26、始めていきましょう。

前回、前々回とメジャー系の 2 種を弾いたので、今回からはマイナー系の 2 種(Xm7、Xm7(♭5))をやっていきましょう。

ルートを A 音に設定して、まずは 5 弦ルートのヴォイシングを見ていきます。

譜例



一つ目のコードが、ハイポジションのヴォイシングから始まっているので、二つ目のコードも上で弾いていますが、同じものをローポジションでも弾いてみて下さい。(※Am7 の方は若干ストレッチ気味ですが)

コードネームとしては、素直に見ると、

・1 小節目が Am7、Am7/C、Am7/E、Am7/G(or Am/G)

・2 小節目が Am7(♭5)、Am7(♭5)/C、Am7(♭5)/E ♭、Am7(♭5)/G(or Am(♭5)/ G)

となっています。

コードの構成音 1 度、3 度、5 度、7 度が、それぞれどの様に並び変わっているのか？を確認しておきましょう。

さて、これらの譜例を弾いてきて、気になっているであろう事として、「一体、これが何の役に立つのか？」ではないでしょうか。

まずはそもそも、ヴォイシングの種類を知っているだけで、プレイの幅は広がるのですが、こう言った迷いが出るのは、最近学んでいる様なものは、所謂、シンプルなロックやポップスでは使いにくいからですね。

Copyright (C) 2016 shunichi onuma All Rights Reserved

この手のドロップ・ヴォイシングを使う代表的なジャンルは、ジャズのバッキング等ですが、他にも、バラードや大人っぽい雰囲気のポップスなどでも使えます。

他にも、各ヴォイシングを、コードトーン・アルペジオ的な単音弾きに変えてみたりすると、普段は出てこない様な音の並びのフレーズになったりするので、リードプレイでも試してみましょう。

とりあえず、応用は、しようと思えばいくらでも出来るのですが、始めたばかりの今の段階で一気にやっても消化が大変なので、後のテキストで扱っていこうと思います。

では、また次回に続きます。

ありがとうございました。

大沼

Copyright (C) 2016 shunichi onuma All Rights Reserved